

日本大学図書館歯学部分館 貴重書特別展示

歯科医学の父 ピエールフォシャール 展

展示目録

展示期間:2018年 10月5日～19日
場所:図書館1階閲覧室入口

世界初の本格的な歯科医学書

18世紀にフランスで発展を遂げた歯科医学は、ピエール・フォシャールと彼が遺した著書「歯科外科医あるいは歯科概論」(以下「歯科外科医」)によるところが大きいと言われています。フォシャールは近代歯科医学の父と呼ばれ、歯科臨床医を当時は大道医者や理髪師に任されていたような「歯抜き師」という立場から、独立した職業「歯科医師」へと変貌させました。

閉鎖的で未だ非科学的であった歯科学を公に開かれた「科学」にすべく、1728年に刊行された「歯科外科医」は、初の近代的歯科医学書と言われており、その内容は、現代の歯科医学、歯科医療の内容をほぼ網羅するものとなっています。20年以上に渡る臨床例を中心に蓄積された研究、臨床技術は、「書物」として遺されることにより、時を越え地域を超えて広がっていくことになります。

この書物はフランス語で書かれていたためか、およそ200年の間は国際的に広く知られることはありませんでしたが、1922年にフランスで、翌年にアメリカで刊行200年を記念する式典が開催され世界的に認知されることとなりました。その模様は、アメリカの学術雑誌「The Dental Cosmos」に詳細に報告され、再評価とその位置づけは確固たるものとなりました。

フランスで行われた刊行200周年式典に日本人として唯一人参加していた中原實(日本歯科医専、現在の日本歯科大学)は「歯科外科医」の原書を携え帰国し、日本に彼の功績を伝えました。同時期に川上為次郎(日本大学専門部歯科、現在の本学部)も同書第2版の原書をパリ歯科大学から寄贈を受け帰国しており、両者によるフォシャール記念講演会も開催されました。

その後、中原所蔵の「歯科外科医」が紛失したため、川上所蔵の第2版が唯一の原書として、半世紀余りの間、本邦に存在していましたが、1978年に川上家により本学部図書館へ寄贈されました(展示資料②)。1980年代になると貴重書が流通するようになり、国内の所蔵館も増えました(当館所蔵初版本は1983年に入手、展示資料①)。また、1946年に英訳本が、1984年に日本語訳本が刊行され、近年においてもその功績を伝える文献が発表されています。

今回の展示では、「歯科外科医」の初版、第2版、ドイツ語訳本の原書を展示ケースにて公開します。直接手に取ることはできませんが、原書の内容を数ページ撮影しておりPCにて映写します。また、ピエール・フォシャールの関連資料も展示していますので、この機会に歯科学の歴史について思いを馳せていただければと思います。

ピエール・フォシャールについて Pierre Fauchard [1678—1761]

フランスの歯科医学者。ブルターニュに生まれ、長じて海軍軍医見習生となり、外科の基礎と歯科診療を学んだ。海軍を退職してアンジェで歯科を開業した。この地で20年間歯科医療に従事し、40歳のときパリに移って歯科診療所を開設した。

1728年に、彼の歯科臨床経験の集大成として『外科歯科医』Le Chirurgien Dentiste, ou Traité des dentsを出版した。

これは歯科医学の百科事典ともいえるべきもので、当時の歯科医術の発展に著しく貢献した。1733年にはドイツ語に翻訳され『フランスの歯科医師』Der Französische Zahnarztとしてベルリンで出版され、1946年には英訳されている。近世歯科医学の祖として尊敬されている。

ピエール・フォシャール関連年表

| | |
|-----------|--|
| 1678 | フランス、プルターニュ地方に生まれる(推定) |
| 1693(15歳) | 海軍外科軍医見習となる |
| 1696(18歳) | アンジェで「外科歯科医」と標榜して開業。トゥール, ナント, レンヌなどの都市を巡回診療する |
| 1719(41歳) | パリ, コメデイ・フランセーズ通りで開業 |
| 1723(45歳) | 著書『歯科外科医1の原稿がほぼ完成 |
| 1728(50歳) | 著書『歯科外科医』初版発行 |
| 1729(51歳) | エリザベート・ギユメット・シュマンと再婚 |
| 1730(52歳) | 『歯科外科医』初版を献じたドダール死去 |
| 1733(55歳) | 『歯科外科医』初版がドイツ語に翻訳されて発行 |
| 1734(56歳) | グラン＝メニルの城と領地を購入 |
| 1737(59歳) | 一人息子のジャン＝バティスト誕生 |
| 1739(61歳) | 妻エリザベート死去 |
| 1746(68歳) | 著書『歯科外科医』第2版発行 |
| 1747(69歳) | カトリーヌ・ルスロと3度目の結婚 |
| 1761(83歳) | 3月21日自宅にて死去 |
| 1786(83歳) | 『歯科外科医』第3版発行 |

Fauchard, Pierre著 高山直秀訳/歯科外科医 : あるいは歯科概論 : 1728年版より

貴重書(貸出・閲覧できません)

展示資料①

ピエール・フォシャール / 歯科外科医あるいは歯科概論 全2巻 初版 1728年

Pierre Fauchard / Le Chirurgien Dentiste, ou traité des Dents. tom 1&2
Chez Jean Mariette, 1728.

18歳で開業したフォシャールは、多忙な診療のかたわら、珍しい症例や困難な症例を書き記した。また、自ら考案した診療機器や手術の改良法なども記された。この習慣は、30年近く続けられた。フォシャールの本格的な歯科医療は、注目を集め、パリに移転してからも一流の外科歯科医として名声を博したが、幾多の先達が経験から知り得た知識や技術が伝承されぬままに失われていくことを惜しみ、書物を執筆することにより啓発と知識の継承をはかるため執筆を開始した。当初から歯科医向けの教科書を意図しており、口腔疾患の具体的な治療法と実技術を書き記した。世界初の体系的な歯科医学書である。

展示資料②

ピエール・フォシャール / 歯科外科医あるいは歯科概論 全2巻 第2版 1746年

Pierre Fauchard / Le Chirurgien Dentiste, ou traité des Dents. Deuxième edition.
tome premier & second
Chez Pierre-Jean Mariette, 1746.

初版より18年後に出版された第2版は、「数多くの特異で有益な症例」と「新しい研究成果」が追加された。3章分付け加えられ、ページにして61ページ増えた。歯槽膿漏症(歯周病)に関して最初に記述した歯科医学書である。それまでは1875年にアメリカのRiggsが紹介したとされ、Riggs病と呼ばれていた。後にフォシャールの業績が明らかになるにつれ、Fauchard病として認知された。この原書は、川上為次郎(日本大学専門部歯科、現在の本学部)が、1921年にヨーロッパを旅行し、パリ歯科医学校を訪問した折に、校長のD.Chlodenから記念として贈呈されたもので、1978年に日本大学歯学部図書館へ寄贈された。見返しの上隅に”川上博士のパリ市、歯科医学校および校長訪問の心からの思い出として D.Chlodeon 1921年9月30日パリ”というサインがある。

展示資料③

『ピエール・フォシャール フランスの歯科医』 歯科外科医あるいは歯科概論 初版のドイツ語版 翻訳者不明 1733年頃発行(推定)

Des Herrn Pierre Fauchard Französischer Zahnarzt, Oder Tractat Von den Zahnen

原著と同時代に出された唯一の訳本である。訳者、発行者、発行時期のいずれも不明であるが1933年頃発行とみられている。序文には、「外科における歯科の領域を、やぶ医者たちから奪い取ることを躊躇せぬように」という一文があり、ドイツの歯科医学の現状を謙虚に反省し、フランスの先進技術を受容すべきという意識が見て取れる。

「このような本は初めて見た。一見、書物というより晒した真鍮の箱のようだった。古色に褪せた辛子色の革表紙には、一切の装飾が施されていなかった。造本技術を誇る飾り模様も金箔押しもバンドもなく、おまけに内容を示す書題も訳者名も印刷されていない。まるで製本の途中で投げ出されたかのようにのっぺらぼうであった。ただ、なめしたままの粗削りな羊皮の素材が剥きだしになっていた。その無造作にして簡素な体裁は一種の凄みを帯び、黄ばんだ総皮が放つ迫りにしばし息をのんだ。」

中原泉/フォシャール探究より

展示資料④

ワインバーガー / ピエール・フォシャール 歯科外科医 近代歯科医学の端緒,最初の歯科医学書および200年前の歯科医に関する論述 1941年

Bernhard W. Weinberge / Pierre Fauchard, surgeon-dentist;
a brief account of the beginning of modern dentistry, the first dental textbook, and
professional life two hundred years ago
Pierre Fauchard Academy, 1941

初めてまとまった形で全般的に記載されたフォシャール解説本である。米国のピエール・フォシャールアカデミーから刊行された。序文では「フォシャールは、現代実地歯科の先駆者であるばかりでなく、現代歯科学術書の創始者であり、歯科技術を体系的、科学的に書き留めた最初の人物である。フォシャールを通して現代歯科学術書は生まれた。」と記載されている。2015年に高山直秀による和訳本が刊行された。

展示資料⑤

デイビッド / フォシャール病 1885年

De la Maladie de Fauchard / Th. David.
A. Delahaye et E. Lecrosnier, 1885.

歯周病の呼称は、19世紀のアメリカの歯科医で歯周病の権威であったRiggsにちなんで、“Riggs' Disease”と呼ばれていたが、フォシャールの業績が明らかになるにつれ、最初に文献上に記述したフォシャールの名を採用し、“Fauchard's Disease”と呼ばれるようになった。Th. Davidによるこの著書では、“Fauchard's Disease”と呼称することを提案している。

展示資料⑥

アーサー・J・ヘルド / 歯周疾患とその治療:旧歯槽膿漏またはフォシャード病

Arthur-Jean Held /
Les paradentoses et leur traitement :
ancienne pyorrhée alvéolaire ou maladie de Fauchard
Masson et Cie, 1939.

スイスのジュネーブ大学歯学部教授で国際歯槽膿漏学会(A.R.P.A)会長であった、アーサー・J・ヘルドによる著書。

展示資料⑦

ヴィオー / ピエール・フォシャールの生涯(1678-1761) 1922年

George Viau / La vie de Pierre Fauchard
Mellotte, 1922

著者のViauはフランスのフォシャール研究家。長年に渡る調査の結果、フォシャールの送った生活の軌跡を明らかにしていった。1904年、アメリカでの万国歯科会議において、フォシャールを紹介する伝記を発表したことにより、世界的に再評価の機運が高まった。この著書は、1922年にパリで行われたフォシャールの「歯科外科医」脱稿200周年記念祭における講演をまとめたものである。初出は「The Dental Cosmos」1923年、8月号。

展示資料⑧

ジョルダン / 口腔の疾患および手術概論 1778年

M. Jourdain / Traité des maladies et des opérations réellement
chirurgicales de la bouche. 1.2 chez Valleyre l'ainé, 1778

フォシャールの「歯科外科医」が後世に与えた影響について明らかにした調査はないが、この同じ18世紀に刊行されたフランスのJourdainの著作では、歯周病(本文中では「歯槽歯肉合併症化膿症」)について述べた中で、本症を最初に記述した著者はフォシャールであると明記し「歯科外科医」を2ページにわたり引用している。

展示資料⑨

川上為次郎 / 歯科医学史. 金原商店. 1931年

本学部で歯科医学史を講じていた川上為次郎による、本邦初の体系的な歯科医学史。フォシャールについて記載された本邦初の文献でもある。56ページに渡り、フォシャールとその著書「歯科外科医」について解説しているが、底本としているのはGuerini著の「A History of Dentistry」である。

翻訳書(展示後に貸出できます)

Surgeon Dentist or a Treatise on the Teeth / Lilian Lindsay (Translator) (請求記号 D3 || F16b)

『歯科外科医』の英訳版。イギリスで最初の女性歯科医師Lilian Lindsayが、「歯科外科医」第2版出版200周年を記念して、1946年に出版した。

フォシャール歯科外科医 / Pierre Fauchard著 ; 高山直秀訳 (請求記号 D3 || F16a)

『歯科外科医 第2版』の日本語版。高山直秀により、1984年に刊行された。

歯科外科医 : あるいは歯科概論 : 1728年版 / Fauchard, Pierre 高山, 直秀 (請求記号 D3 || F16)

『歯科外科医 初版』の日本語版。高山直秀により、2015年に刊行された。

概説ピエール・フォシャール歯科外科医 : 近代歯科医学の端緒, 最初の歯科医学書および200年前の 歯科医に関する論述 / Weinberger, Bernhard W. 高山直秀訳 (請求記号 D028 || W55)

1941年に刊行された米国の『a brief account of the beginning of modern dentistry, the first dental textbook, and professional life two hundred years ago』の日本語版。高山直秀により、2015年に刊行された。

解説書(展示後に貸出できます)

フォシャール探求 : “歯科医学の父”の実像に迫る! / 中原泉著 (請求記号 D3 || F16)

今回の展示のネタ本です。ダイナミックに幾分感傷的に書かれており、楽しく読めます。